

式 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご家族の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、お忙しいところご臨席いただきましたご来賓の皆様に厚く御礼を申し上げます。

皆さんはこれから医療人として医療現場という新しい世界に足を踏み入れることとなります。是非、社会人としての強い自覚を持って活躍していただきたいと思います。

この場を借りて、一人の医療人として、皆さんにアドバイスしたいと思います。それは皆さんが患者さんと接する時に自分の主観的な感覚を優先するのではなく、相手が何を感じるかということを大切に取組んでほしいということです。例えば、患者さんを早く治してあげたい、早く元気にしてあげたい：等の気持ちを持つことは大事です。ただ、相手に何かをしてあげたいという思いが強すぎると、

患者さんからの反応が期待外れだった時、

「こんなにしてあげているのに、どうしてもっと感謝してくれないの

か」といった不平や不満、時には怒りの気持ちが沸き上がることもあります。

「何かをしてあげようと思って行動する」のではなく、

「自分が今やるべきことに全力で向き合い、全うすることで、

患者さんが何かを感じてくれたら嬉しい」

という思いを大切にしたいのです。

そのためにも、学生時代から目標とし、日々努力して身につけた確かな知識と技術を、これから実際の現場で磨いていってください。

謙虚な心を持ちながら経験を積んでいく中で、皆さんと患者さんとの間に確かな信頼関係がきつと生まれると信じています。

最後に、

私たち医療人が果たすべきは、患者さんの苦しみや家族の悲しみにどう対処できるのかを問い続けることです。

本学の教育理念である「Saluti et solatio aegrorum（病める人びとを医やすばかりでなく慰めるために）」を是非、改めて心に刻み込んでくれることを願っております。

以上をもちまして私の式辞とさせていただきます。
本日は誠にありがとうございます。

令和 八年 三月 十日

藍野大学学長

佐々木恵雲